

## 情勢報告

## 人・農地プラン地区懇談会が始まる



地域の将来をどうするべきか、  
考えてみよう

8月22日、管内で最初の人・農地プラン地区懇談会が安芸市の川北公民館で開催され、振興センターも安芸市担い手育成支援協議会のメンバーとして出席した。会では人・農地プランの主旨や青年就農給付金制度などの説明のほか、参加農家とは遊休農地解消の取り組みに関する活発な意見交換が行われ、最後に川北地区の人・農地プラン記載内容について合意ができた。

安芸市では今年中に5地区でのプラン作成を予定しており、また他市町村でも順次懇談会が開催されることから、振興センターも各地区のプラン作成に対する助言を行っていく。

## 集落営農研修会の開催（新たな担い手の確保へ！）



地域の事例について研修中

8月23日（木）奈半利町福祉センターで「農地・水」や「直払い」関係組織や関係機関を対象に14名の参加を得、集落営農の研修会を開催した。集落営農についての説明や各地域の事例等紹介など、地域でできる集落営農について考えてもらう場となった。参加者からは「これならできる気がした」という意見や、アンケートでも、集落で話し合いの場を持ちたいという回答があった。関係組織の代表者を対象にした説明会を持つことで新たな組織に関心を持ってもらうことができた。

今後も振興センターとして、集落営農組織の確保育成を行っていく。

## キュウリ勉強会を開催～新しい品種の導入&amp;天敵利用技術の確立に向けて～



栽培ポイントを勉強中

8月24日、JA土佐あき室戸支所で、キュウリ部会が開催され、生産者5名が参加し、昨年度の栽培方法の反省や新品种の特性などについて勉強した。

振興センターおよびJAからは、平成25年園芸年度での天敵利用体系について提案した。また、種苗会社から、前園芸年度の栽培面での総括と平成25園芸年度に向けた栽培管理ポイントについて解説があった。

参加者からは、「新しい品種に取り組んで、反収向上したい」「前作の反省も含めて、天敵も利用したい」という前向きな声が聞かれた。

振興センターでは、新しい品種の栽培管理や改良した天敵利用体系の普及に向けて、JAと協力して支援を行う。

## ナス「土佐鷹」の新たなスタートに向けて



講習会での説明状況

7月30日～8月30日の期間に芸西地区から中芸地区までの計6集出荷場において生産者81名が参加し、「土佐鷹」栽培講習会が開催された。

振興センターでは、生育初期に強いストレスをかけないことがナスのスムーズな活着や樹づくりにつながるため、今回は特に生育初期の栽培管理(遮光、温度、灌水、摘果など)の重要性を説明した。また、近年、発生し始めた「すす斑病」や難防除の「黒枯病」および「すすかび病」の対策などについて講義した。

9～10月にかけては樹づくりの重要な時期となることから、振興センターは、重点的に巡回し、技術支援を行う。

## 安芸地域園芸戦略推進会議がJA出資型法人、営農アドバイザー制度を学ぶ！



JA 四万十での会議風景

8月29日、安芸地域園芸戦略推進会議が、関係機関や生産者代表他13名で、本県初のJA出資型法人である営農センター四万十(株)とJA四万十の営農アドバイザー制度、また、(株)ハーベストの農産物加工事業への取り組みについて、先進地調査を実施した。

JA土佐あきでは、10年後の地域農業像や中期営農計画の策定の中で、JA出資型法人設立や営農体制強化、また、農産物の6次産業化などを協議しており、参加者からは、活発な質疑が出され、有意義な意見交換の場となった。

振興センターでは、今後の戦略推進会議がスムーズに活動できるようコーディネートするとともに支援していく。

## 東川酒米研究会の現地検討会



ようできちゅうじゃいか

9月4日、東川酒米研究会は酒造メーカー5社に今年の作柄を確認してもらうことや生産者との交流を目的に、安芸市入河内で収穫前の現地検討会を生産者10名全員と酒造会社で開催した。

振興センターは、7月に行った葉色調査結果に基づいた施肥方法や気象経過と生育の解説等を行い、これから9月中下旬の収穫までの管理方法を説明した。生産者は葉色調査による酒米独自の施肥方法の重要性を確認した。酒造メーカーからは今年も品質はよさそうという声があがり、生産者の意欲も高まった。

今後も振興センターは東川酒米研究会に対して、さらに品質の良い酒米作りの指導を行う。

## 日本初！青果ゆずをフランスに輸出！ その前に！！



2つ星シェフによる  
ユズフレンチを堪能

北川村モネの庭で、フランスとスペインの有名シェフによる「北川村ゆず昼食会」が9月7日に開催された。フランスを中心にゆず果汁や果皮のレストラン需要が増えており、さらなる需要拡大を目指して北川村内で青果輸出の準備を進めている。今回はシェフと日仏流通関係者が産地見学のため来高した機会に併せ、生産者との交流会が実現した。料理を食べた生産者は、ユズの特徴を活かした繊細なフレンチに驚くと同時に、フランスでの需要拡大への期待を膨らませた。

振興センターでは、日本初のEUへの青果輸出に向けて、病害虫の発生調査、パリ商談会（10月末）用のカラーリング出荷準備、残留農薬検査等の対応を支援してきた。今後も11月の本格輸出に向け継続した支援を行い、生産者の意欲向上につなげる。

## ナスすす斑病対策に取り組む



発生ほ場で状況確認。

8月27日～9月7日に、今園芸年度は定植直後からナスすす斑病の発生が多くのは場で見られたため、振興センターやJA、園芸連、種苗会社等関係機関が速やかに情報共有と対策検討を行い、同病発生ほ場の全戸巡回を行った。その際、振興センターは薬剤や耕種の防除についての資料を作成し、農家に配布し、集出荷場に展示したり、勉強会を開催する等の活動を行った。

その結果、対策についてはほとんどの農家に情報提供ができ、勉強会に参加した農家からは「大変参考になった」との声も聞かれた。現在、すす斑病の拡大は抑えられている。

今後も情報収集や対策の情報提供を行い、すす斑病の拡大を防ぐ。

## 収量UPに向け、室戸市羽根・吉良川で施設ナスの樹づくり指導を実施



「室戸普及所だより」の配布  
や個別巡回により樹づくり  
を指導

室戸市では9月上旬で施設ナスの定植が終わり、収量UPに向け、定植後の樹づくりについて重点的な指導を実施した。

振興センターでは、月々の栽培技術資料として新たに「室戸普及所だより」を作成し、9月分を施設ナス農家全戸（羽根38戸、吉良川9戸）に配布した。また、個別巡回により栽培管理や病害虫管理、新病害ナス「すす斑病」対策について指導した。

樹勢管理や天敵導入のタイミング、新病害の発生状況に関して生産者の関心が高く、また「定植時期別に情報提供を」との要望が寄せられた。

振興センターでは、10月以降も「室戸普及所だより」を配布するとともに、営農相談日を新設して適期指導を徹底していく。